

深浦会東京だより

第6号

深浦会東京 事務局
〒154 東京都世田谷区
上馬4-23-7
トボス、M. 駒沢102
TEL 03-3418-0914
FAX 03-3422-0483

東京の深浦祭り盛大に開催

過去最高の四〇〇名が参加

第四回目を迎えた総会・交流会が6月23日、品川区立総合区民会館「きゅりあん」において開催された。

総会では、昨年の活動と今年の事業計画等が審議された。また、今年度は、役員改選期ということで役員選挙が行なわれ、黒滝会長他15名が選任された。新役員名は別記のとおりです。

引き続き、当会を全面的にバックアップして頂いている町を代表して、平沢町長から祝辞が述べられました。

総会が終わり、いよいよ交流会。昨年に引き続き、当会の役員である佐藤完示の司会によりスタート。

当日は、町の関係者を含めると、約四〇〇名の参加があり、会場は、「なや」「わや」「わごと」わがらが「なや」と、津軽弁が飛び交う熱気にあふれた交流会であった。

今年度も、参加者が一番(?)楽しみにしている、鯛、ひらめ、久六島のさざえ、いかずし、もずく、しらみ味噌汁、日本酒(夕陽海岸白神の詩)、キャロットワインやキャロットジュース等が町から提供され、「めな」「なつかしいな」と都会では食べられない、深浦の味に舌鼓を打っていた。

また、交流会では、深浦会の特産品が当たるビンゴゲーム等のイベント。

も盛り沢山あり、来年の再会を約し、盛會裡のうちに幕を閉じた。皆さん、来年も是非いらして下さい。

深浦会東京総会・交流会に参加して

一体感深まる

若崎 正光 (田野沢出身)

大戸瀬中学校の昭和42年度卒業生のうち、関東地区に在住する仲間が一度同級会を開いています。今年も6月初めに開かれ15名ほど集まりましたが、その席上で「深浦会東京」の話題になり、みんなで総会に出席しようということになった。参加が御縁で、初めて総会に参加することになりました。

◎平成8年度新役員

() 内は地区名

- ▽顧問 平沢敬義(龜木)、島川聖明(岡町)、藤田周次郎(柳田)、石崎高志(苗代沢)、佐藤登(浜町)
- ▽会長 黒滝進(浜町)
- ▽副会長 吉田文雄(田野沢)、山内隆逸(長慶平)、野村初世(岡町)
- ▽幹事 八木一次(岡町)、松尾理沙(崎町)、佐藤完示(浜町)、兼平幸四郎(田野沢)、岩谷薫(北金ヶ沢)、藤田重秋(苗代沢)、飯田勉
- ▽地区別世話人 柳野博栄(柳田)、五十嵐保(北金ヶ沢)、尾藤祥子(晴山)、関根繁子(横磯)、荒井孝子(岩坂)、赤平信雄(関)、日下部美智子(風合瀬)、角谷敏昭(広戸)、世永さつえ(船作)、田中利道(松原)、石沢秀敏(追良瀬)。

総会に参加して、深浦会の会員規模、事業活動内容、地元深浦町の全面的な支援等、大変立派な運営が為されていることに驚きました。深浦会の隆盛が逆に、深浦町の過疎化に拍車をかけやしないかと心配になったくらいです。

また私たちが大戸瀬支所の管轄の住民は幼少の頃とかく目が鱈ヶ沢・五所川原方面を向き、深浦本町地区とは疎遠になりがちでしたが、深浦会に参加して一体感が強まったような気がします。

今年、初めて総会・交流会に参加させていただき、深浦独特の津軽弁が響きわたる会場では、東京でありながら十分に深浦を満喫することができました。

また、東京で活躍されている故郷の先輩の方々が大勢参加されている事に驚き、地元深浦町からは、町長さん・助役さんを始め、町政を担っている方々にお会いすることができ感激いたしました。そこには、社会での地位・名誉とは関係のない、ただ単に「同郷・深浦町」であるだけで親しめる雰囲気があり、都会の行政のあり方はひと味異なるものに思えました。

ところで、私は高校卒業後、上京し、東京での生活の方が長くなりつつありますが、人並みに社会に出、いろいろな人と

すでに関東地区に定住されて長いのですが、私は転勤族のためこの3月まで青森県の八戸市に住んでおり、4年ぶりで横浜市に戻ってきました。いろいろな場所を経験して故郷・青森の良さがよく分かります。父母の住む深浦(妻の実家は青森市への里帰りをするの糧として、日々の生活を頑張っております)。

深浦会の皆さん、故郷の空気を十分に満喫し、童心に帰って楽しめる総会でした。来年また元気に深浦会の方々は

「来年もまた来るべし」「来年もまた逢うべし」との言葉があふれる中、深浦会東京を支援しているものと思えました。深い感動を受けた一人でありました。生まれ育った「ふるさと深浦」を残し、人々に託し、大都會での成就にはさぞや苦難辛苦の路を越えて今日に至ったものと思えます。深浦出身の賢人達の声「アイ・ラブ深浦」のラブコールが海を越え、山を越えて高々と聞こえてくる感じがします。

深浦会東京の発展を願う

西崎 修治 (船作出身)

交流会に参加させていただき、深浦独特の津軽弁が響きわたる会場では、東京でありながら十分に深浦を満喫することができました。

また、東京で活躍されている故郷の先輩の方々が大勢参加されている事に驚き、地元深浦町からは、町長さん・助役さんを始め、町政を担っている方々にお会いすることができ感激いたしました。

ところで、私は高校卒業後、上京し、東京での生活の方が長くなりつつありますが、人並みに社会に出、いろいろな人と

すでに関東地区に定住されて長いのですが、私は転勤族のためこの3月まで青森県の八戸市に住んでおり、4年ぶりで横浜市に戻ってきました。

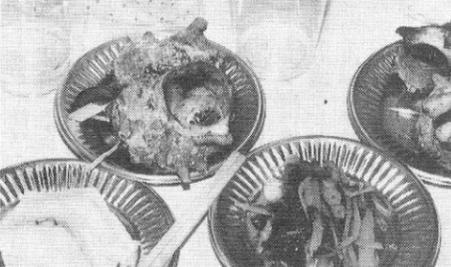
深浦会の皆さん、故郷の空気を十分に満喫し、童心に帰って楽しめる総会でした。来年また元気に深浦会の方々は

「来年もまた来るべし」「来年もまた逢うべし」との言葉があふれる中、深浦会東京を支援しているものと思えました。深い感動を受けた一人でありました。生まれ育った「ふるさと深浦」を残し、人々に託し、大都會での成就にはさぞや苦難辛苦の路を越えて今日に至ったものと思えます。深浦出身の賢人達の声「アイ・ラブ深浦」のラブコールが海を越え、山を越えて高々と聞こえてくる感じがします。

交流会



黒滝進会長の挨拶



郷土料理がところ狭しと並ぶ



待ちに待った交流会、乾杯!!

今年、初めて総会・交流会に参加させていただき、深浦独特の津軽弁が響きわたる会場では、東京でありながら十分に深浦を満喫することができました。

また、東京で活躍されている故郷の先輩の方々が大勢参加されている事に驚き、地元深浦町からは、町長さん・助役さんを始め、町政を担っている方々にお会いすることができ感激いたしました。

ところで、私は高校卒業後、上京し、東京での生活の方が長くなりつつありますが、人並みに社会に出、いろいろな人と

すでに関東地区に定住されて長いのですが、私は転勤族のためこの3月まで青森県の八戸市に住んでおり、4年ぶりで横浜市に戻ってきました。

深浦会の皆さん、故郷の空気を十分に満喫し、童心に帰って楽しめる総会でした。来年また元気に深浦会の方々は

「来年もまた来るべし」「来年もまた逢うべし」との言葉があふれる中、深浦会東京を支援しているものと思えました。深い感動を受けた一人でありました。生まれ育った「ふるさと深浦」を残し、人々に託し、大都會での成就にはさぞや苦難辛苦の路を越えて今日に至ったものと思えます。深浦出身の賢人達の声「アイ・ラブ深浦」のラブコールが海を越え、山を越えて高々と聞こえてくる感じがします。

「来年もまた来るべし」「来年もまた逢うべし」との言葉があふれる中、深浦会東京を支援しているものと思えました。深い感動を受けた一人でありました。生まれ育った「ふるさと深浦」を残し、人々に託し、大都會での成就にはさぞや苦難辛苦の路を越えて今日に至ったものと思えます。深浦出身の賢人達の声「アイ・ラブ深浦」のラブコールが海を越え、山を越えて高々と聞こえてくる感じがします。



ふるさとへの恩師から

元明道小学校校長 台丸谷秀雄

この原稿を依頼されたとき、目に浮かんだのは、集団就職したあの時の子どもたちの姿でした。

まこととか「月の石」とか言われた中学校卒業の男女が都会に就職した。私が深浦中学校に勤務していた頃、集団就職する生徒の激励や駅頭での見送りを思い出す。今後の職業指導のため、就職

先の実業所を訪問したこともある。あれから長い年月が過ぎた。不惑の40代は、それぞれの分野で不惑の邁進を続けていることと思う。でも、くじけそうになった時に上野駅を思い出さうか。就職列車にゆられて着いた遠いあの夜を思い出す

この会の交流会の際に、十分味わい、聞き、感じてください。深浦弁とヤリイカのさしみが、この「深浦まつり」を盛り上げることでしよう。ホームの時計を見つめていた母の笑顔になっていた上野は俺らの心の駅だ。お店の仕事はつらいけど

「来年もまた来るべし」「来年もまた逢うべし」との言葉があふれる中、深浦会東京を支援しているものと思えました。深い感動を受けた一人でありました。生まれ育った「ふるさと深浦」を残し、人々に託し、大都會での成就にはさぞや苦難辛苦の路を越えて今日に至ったものと思えます。深浦出身の賢人達の声「アイ・ラブ深浦」のラブコールが海を越え、山を越えて高々と聞こえてくる感じがします。

故郷から

「深浦会東京」に参加して

深浦出身者に

栄光あれ!!

深浦町商工会事務局長 木村聖明

「あだあ、水谷さんでねが... わだあ、わごとわがる」相手は黙って私の顔をじっと見て、しばらくして、「あ、だれがど思ったあ、わがったわがった、すばらくだあ、どしてらば」

これが40年ぶりに逢った最初の言葉でした。また、「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」である。受付から

会場に入る、東京の方々に招待席でも目を見張り、あの人、この人の顔を脳裏にたたき込んだが、あの大きな大会場が人で埋め尽くされ満杯にびっくら仰天、深浦会東京ってこんなに東京の方々が参加するの... すごくいいなあ、これが実感でありました。

最近すべてにわたり、人々を動員することは容易なものでありません。易なものでありません。頭をかかえている現状を見るにつけ、深浦会東京の組織、その結束力、そして皆々様方の意欲は他に類を見ない力強さを感じました。改めて関係者のご苦勞に感謝申し上げます。

「来年もまた来るべし」「来年もまた逢うべし」との言葉があふれる中、深浦会東京を支援しているものと思えました。深い感動を受けた一人でありました。生まれ育った「ふるさと深浦」を残し、人々に託し、大都會での成就にはさぞや苦難辛苦の路を越えて今日に至ったものと思えます。深浦出身の賢人達の声「アイ・ラブ深浦」のラブコールが海を越え、山を越えて高々と聞こえてくる感じがします。

